

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	洲本市立 洲浜中学校 職・氏名 養護教諭 小川 周子	研究チーム名 (洲浜中生を考える会)
-----------------	-------------------------------	-------------------------

研究テーマ分類番号 (4)

(1)研究テーマ	
思春期の子どもたちが、性・生の問題に自分で見つけ自分で解決していこうとする力をつけることを目的とし、生の自己決定能力を育てる健康教育へのピアカウンセリング（仲間相談）の活用	
(2)研究経過及び具体的な取組	
思春期の子どもたちが、性・生の問題に自分で見つけ自分で解決していこうとする力をつけることを目的とし、生の自己決定能力を育てる健康教育にピアカウンセリング（仲間相談）を活用する。 (参考) 18～21歳学生が、NPOひょうごピアカウンセリング研究会の養成講座(6日間：30時間)を修了し、思春期ピアカウンセラーとして思春期ピアカウンセリングを実施。同研究会会長は、神戸市看護大学助産学専攻科教授で、兵庫県においても「未来の親教育 思春期ピアカウンセリング事業」の推進に活躍中。	
4月	洲本健康福祉事務所地域保健課 保健師と思春期保健事業について打ち合わせ。 ・ ピアカウンセリング事業の実施状況、思春期保健事業の予算についてを把握する。 毎年実施をするための予算をどのような分野で確保できるのかを検討。 ・ 前年度2月洲本市学校保健会研修会と洲本健康福祉事務所の共催でピアカウンセリングのデモンストレーションを実施したことが学校関係者に広報・啓発活動となったことを受け、女性教職員研修会においてもピアカウンセリングのデモンストレーションを実施し、広く教職員にピアカウンセリングの意義を広報できるよう計画。(8月24日実施)
5月	本校で実施するピアカウンセリングについて打ち合わせおよび連絡調整をする。 神戸市看護大学 助産学専攻科 健康生活看護学領域ウィメンズヘルス看護学教授と 神戸市看護大学3回生ピアカウンセラーの代表者とは、電話・メール・FAXにて連絡。
6月	職員の共通理解を図るためにピアカウンセリング実施要項の配布。
7月	本校のピアカウンセリングの実施を保健だよりにて生徒・保護者・職員に広報。
8月	実施：平成22年8月2日(月)9:00～10:30 夏季休業中の登校日 対象：洲浜中学校3年生 89名 方法：各クラスにピアカウンセラー3名配置、計9名により実施 内容： (1)自分の将来について考える 自分のライフラインを書く。グループ内で自分のライフラインを発表し合う。人によって違うことを知る

(2) 仲間からのプレッシャーへの対応

友人の中で自分だけ、他の人と意見が違う場合はどうするか？みんなに合わずか、それとも自分の意見を持てるか？

人それぞれ違うので、必ずしもみんなと同じでなくていいことを知る。

(劇の活用 (例) 携帯電話をもっているか？好きな人がいるか？)

(3) 性感染症について

1名のコップには水+試薬、他の人には水のみを入れる。数人の人と水を半分ずつ交換していき、最終には、全員に試薬を入れて水が着色するかどうかを見る。(着色した人が多いことで性感染症の広がりを疑似体験する)

自分の性行動への自己決定の大切さを知る

(4) デートDV

劇を見ながら、デートDVとは何かを知る。

自分の意志表現の大切さ、自分の行動を自己決定することの大切さを知る。

成果と課題：

自分は自分らしく、周りの人と思いやりながら協力しあって生活していくことの大切さに気づいたようである。自分のことをゆっくり見つめる時間ももていなかったから自分の問題に対して見つめることから始め、自分で解決策を見出していくことをサポートしてもらい、その過程で自分の考えや気持ちを明らかにし、自分にできる解決策を探っていくことができる力をつけたいと感じた生徒が多かったのは成果であるといえる。

9月 アンケート結果(資料1)をまとめ、保健だよりを配布

11月16日 洲本市保健センター嘱託助産師(地域では助産院開業)の講義を3年生に実施。
(本校では、3年前から社会人活用事業で継続している)
内容は、生命誕生、性感染症、若年層の人工妊娠中絶について。
事後アンケート・感想文を書き自分の考えや気持ちを整理する時間とした。
実施状況と3年生の感想を保健だよりにて配布予定。保護者の感想を募る。